

第3回 草津市自転車安全安心利用促進委員会

日時：平成27年3月25日（水）10時～

場所：草津市役所4階 行政委員会室

次 第

1 開 会

2 報 告

- (1) 前回委員会での意見等について（資料1）

3 議 事

- (1) 草津市自転車ネットワーク計画について（資料2）（資料3）
(2) 自転車安全安心利用教育マニュアルについて（資料4）

4 その他

次回の日程等について

5 閉 会

(添付書類)

- ・委員名簿 ・席次表
- ・草津タウンマップ ・草津観光マップ （・草津とくどくガイドブック）

「自転車安全安心利用促進委員会」委員名簿

(敬称略)

氏名	所属等	施行規則規定	(条例責務規定)
1	高 木 ユ ミ	公募市民	公募により選考する市民 <small>市民・自転車利用者・保護者</small>
2	中 森 宏 正	公募市民	公募により選考する市民 <small>市民・自転車利用者</small>
3	鵜 飼 眞 治	公募市民	公募により選考する市民 <small>市民・自転車利用者</small>
4	森 登 世 美	草津市立新堂中学校 (草津市立小中学校校長会)	学校教育の関係者 学校
5	澤 由 紀 子	滋賀県立玉川高等学校 (滋賀県立高等学校)	学校教育の関係者 学校
6	古 橋 由 一 郎	学校法人立命館 BKC地域連携課	学校教育の関係者 学校
7	川 瀬 善 行	草津市まちづくり協議会連合会	関係する団体を代表する者 市民
8	前 野 奨	滋賀県脊髄損傷者協会	関係する団体を代表する者 市民
9	金 澤 郁 夫	草津商工会議所	関係する団体を代表する者 事業者
10	深 田 恵 子	滋賀県自転車軽自動車商業協同組合	関係する団体を代表する者 自転車小売業者
11	田 中 吉 恵	滋賀県自転車防犯協会	関係する団体を代表する者
12	村 林 一 寿	草津警察署	関係する行政機関(警察)の職員
13	上 原 秀 樹	国土交通省近畿地方整備局滋賀国道事務所	関係する行政機関の職員
14	林 奈 央	滋賀県南部土木事務所	関係する行政機関の職員
15	小 川 圭 一	学識経験者	学識経験者

草津市自転車安全安心利用促進委員会

小川圭一委員長



公募委員

中森 宏正

公募委員

鶴飼 眞治

公募委員

高木 ユミ

草津市まちづくり協議会連合会

川瀬 善行

滋賀県脊髄損傷者協会

前野 奨

草津商工会議所

金澤 郁夫

滋賀県自転車軽自動車商業協同組合

深田 恵子

滋賀県自転車防犯協会

田中 吉恵

草津市立小中学校校長会

新堂中学校校長 森 登世美

滋賀県立高等学校

玉川高等学校校長 澤 由紀子

立命館大学BKC地域連携課

課長 古橋 由一郎

草津警察署

交通課長 村林 一寿

滋賀国道事務所

交通対策課長 上原 秀樹

滋賀県南部土木事務所

林 奈央

橋本 林 松尾 川崎 山本 藤澤

関係課

危機管理課 環境課 道路課 土木管理課 スポーツ保健課

傍聴

記者

随行

随行

●前回委員会（第2回）での意見等について

○草津市自転車ネットワーク計画アンケート調査中間結果について

・アンケート調査で観光やレクリエーション施設への自転車利用についても統計を取ったらどうか。

→関係課へアンケート調査の実施についての確認を行い、そのような路線も検討していく。

・アンケート結果では利用者が多い立命館大学の通学路が高い需要となっているが、それ以外の中学生等の通学路で、危険なところも優先的に整備してほしい。

→利用者が集中しているような通学路は道路を分散できるような仕組みを検討する。また、今回のアンケート結果を踏まえて整備手法を考えていく。

○自転車ネットワーク計画の策定について

・草津市ではどの形状の自転車道を実施するのか。

→費用面等から用地買収までは困難であるため、車道混在で検討していく。

・道路の整備等できるだけ自転車に乗っている人目線で検討してほしい。

→できるだけ狭い道路は通らないようにしていくのと同時に、通る場合には安全に通行するためにはどうしたらよいかを検討していく。

・観光等で利用するネットワークと通学路等で利用するネットワークと一緒にするのか。

→利用目的に合わせた分け方をすべきかと考える。

・目的別に分けるのなら、基本的な考えを持った上で路線の選定をするべきである。

→基本的な考え方を整理したものを示し、委員会での議論を経て路線案を作成する。

○自転車安全安心利用教育マニュアルについて

・中学校で現在ヘルメットを被っていない経緯を教えてほしい。

→過去にヘルメット購入に対する補助を行っていたが、ほとんどの生徒が校門の前だけしか被らない実態がわかり、補助金が取り止めになった。

・地域の各委員が集まった際に、手本となるような支援メニュー等を掲載してほしい。

→利用教育マニュアルは学校向けだけではなく一般向けに作成するので、その中で学校や地域等個別に指導方法を記載していく。

・ヘルメットの着用に関して、大人が見本をみせないとも子どもはなかなか被らないので、まずは大人が被るような検討をしてほしい。

→学校での自転車安全安心利用教室の中でヘルメットの重要性は訴えていく。また、大人に対しても、地域等での自転車安全安心利用教室や啓発活動において、ヘルメットの重要性を訴えていく。